

令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 美術科

改善の重点

- ① 題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、題材のねらいを生徒と共有し、〔共通事項〕を造形的な視点と関連させ「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習に位置付けること。
- ② 生徒の思考におけるつまずきを予め想定したうえで、学びの過程を重視した指導計画を作成し、題材における具体的な評価規準、指導事項等の整合性を図ること。

1 設定期理由

中学校学習指導要領第2章第6節美術の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」に「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。」とある。美術科では、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することが求められている。〔共通事項〕は、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として位置付けられており、これらを活用することで、一人一人の生徒が造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を高めることができる。また、指導においては、生徒が学習の目的を明確にもつことができるよう、導入の段階で題材のねらいを共有するための工夫が大切である。そうすることで、生徒は学びの方向性を理解し、表現や鑑賞に主体的に取り組む意欲を高めることにつながる。

美術科では、生徒が自由に発想しながら制作活動に取り組んだり、鑑賞したりする過程で、思考が停滞したり、技法の選択に迷ったりすることがある。そのため、指導計画を作成する際には、生徒がどのような場面つまずく可能性があるかを事前に想定し、実態を踏まえた指導計画の立案が求められる。例えば、発想・構想段階でアイデアが思いつかない生徒にはスケッチやイメージマップを活用させ、技法の選択に悩む生徒には試し描きや ICT 端末を活用する機会を与えるといった支援が考えられる。また、作品の完成度だけでなく、「どのように考え、工夫し、試行錯誤したのか」という過程を把握し、制作過程で一人一人の構想や表現のよさを多様な方法で評価し、励ますことによって、主体的な表現への意欲を高めることが重要である。生徒の学習改善や教師の指導改善のためには、授業の目標に準拠した具体的な評価規準の作成が重要であり、指導事項等の整合性を図り、目指す資質・能力を確実に育成することが求められる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 美術科で目指す資質・能力を生徒に確実に育成するために、題材の指導と評価の計画を作成すること。その際、題材の目標と題材の評価規準、各時間の学習活動と評価規準を記載すること。
- ② 題材の指導計画を作成する際に生徒のつまずきを予想して、具体的な手立てを想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術
- ② 「早わかり！題材計画の作成手順（～中学校美術第1学年「花の命を感じて」を例にして～）」